

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>1 教育目標 生徒一人一人を大切に、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。</p> <p>2 教育方針 (1)自らの目標を達成するための確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成。 (2)基本的な生活習慣を培い、礼儀や規律を重視した指導の徹底。 (3)「開かれた学校づくり」を推進し、家庭や地域社会から信頼され支持される学校づくり。</p>		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かしたふるさと教育の推進 ・探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実 ・ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、多様な進路希望を実現 ・商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通じた、生活における様々な課題解決力と職業観・倫理観の育成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 ・学習や学校内外の諸活動において、自分の可能性を信じて実践を発展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・傾聴する姿勢、自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・地域とのつながりを大切に、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いをもった生徒
<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇ふるさと教育</p>		
<p>4 現状の分析</p>	<p>◇外部評価アンケート(令和4年度実施のもの)実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒および保護者にメールを送付しWEBで回答した。 ・保護者、学校運営協議会委員では159人(46%)、生徒は357人(103%)が回答。生徒の回答数が在籍者数を超過。WEB回答のため、回答者の特定ができず、超過の原因は不明である。 ・多くの質問項目で昨年度に比べて今年度はA+B(あてはまる)が大幅に増加し、C+D(あてはまらない)が減少した。 <p>◇アンケートの結果</p> <p>【生徒】 ○学校行事や特別活動に関して通常の活動ができるようになり、生徒の満足度が高まっている。 ▲わからないと答えた者が1割強あり、特別活動に関心を持っていない生徒がいる。</p> <p>【保護者】 ○該当なし ▲学校行事について、保護者が参加する機会がほとんどない。</p>		
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇中学生への広報活動(入学したくなる学校)</p>		
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事・生徒の活動の活性化 ・地域連携活動の充実 		

	・生徒満足度の向上（在校生のインフルエンサー化）	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学校行事の拡充 (2) ふるさと教育関連事業について各学科の活動の充実 (3) 特別支援学校との共同学習	(1) 生徒や教員の満足度（事後アンケート等） (2) 地域（行政・企業など）からの評価・評判 (3) 特別支援学校からの評価・評判	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・明誠祭（文化の部・体育の部）での取組 ・ふるさと教育関連事業（地域連携活動） ・特別支援学校との共同学習	①全員が参加できているか、充実した活動になっているか ②地域のニーズに応えたものになっているか ③形骸化された活動になっていないか、満足できる活動になっているか。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B C D A B C D
12 成果 課題	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D	
<p>○学校行事を対面で行うことができたため、生徒たちの充実感や満足度は高まっている。</p> <p>○ふるさと教育関連事業では、各学科がそれぞれ地域のニーズに応えた地域連携活動を行うことができた。</p> <p>○特別支援学校との共同学習では、事前学習から訪問交流・来校交流と、特別な支援が必要な生徒の理解を行ってから活動につなげることができ、双方にとって良い活動となった。</p> <p>▲明誠祭の取組では6月開催であったこともあり、準備期間が短い中での実施となった。生徒数の減少から予算が少なく、今後工夫が必要である。</p>		
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・行事日程について、明誠祭文化の部を9月実施にすることで十分な準備期間をとる。また、特別支援学校との交流を同時に行うことにより、行事に対する教員の負担を減らす（働き方改革）。また、予算については、特別支援学校との共同学習事業と抱き合わせることで、県からの予算を活用できるようにする。</p> <p>・ふるさと教育関連事業では、各学科の特色を生かしながら、地域のニーズに応えた活動を継続的にを行い、海津市の活性化につながるような活動を続けていく。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月17日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海津市との協働で各種事業を行っているが、生徒発信の、生徒が創出した事業提案を実践できるとよい。 ・校外活動を通して地域の人と関わることにより、今後の人生においても、本人の知らないうちに役に立っていると思う。そのような機会が増えるとよい。 ・学習成果発表会は、大変すばらしかった。以前のように、保護者（全学年）や海津市内や隣接する市町の中学生にも見てもらい、入学したくなる学校として、本校の魅力を広報できたらよい。
